

a 学校教育目標	知・徳・体のバランスのとれた人間力の向上	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】「響き合う学校文化の創造—二中から日本全国へ—」 【ビジョン】「言葉の力と体験の力によって『確かな学力』を高める」 【キャッチコピー】「響き合っていますか、私たち」(校訓「響き合う二中っ子」の実現)
----------	----------------------	----------------------	--

評価計画		自己評価					改善方針	学校関係者評価														
		c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値		h 10月達成値	i 2月達成値	j 達成度	k 結果と課題の分析	l 評価										
												イ	ロ	ハ								
知育	<p>(確かな学力) ◎知識・技能の「習得」「活用」「探究」の教育の推進 ○PISA型読解力—論理的読解力・論理的思考力・論理的判断力・論理的表現力の育成 ○わかる授業の創造 ◎言語活動の充実 ◎各教科等横断的・総合的な学習の展開</p>	<p>◎授業研究の推進—授業力の向上 ・言語技術の活用—各教科等 ・校内研修(研究協議)の充実 ○指導目標・達成目標の明確化と個への対応—特別支援教育の充実 ◎相互作用の充実—「学び」の共同体 ◎総合単元的な道徳学習の充実 ◎総合的な学習の時間と各教科等との接続 ◎読書活動の充実 ◎家庭学習の習慣化</p>	○校内研修会(年間10回)の100%実施	◎授業満足度70%以上	◎全国学力調査・基礎基本定着状況調査・標準学力調査結果の全国平均(県平均)比各5ポイントアップ	○補充的・発展的な学習の満足度60%以上	○特別支援学級と普通学級の交流の満足度70%以上	◎各教科等での「言語技術」の活用による相互作用(対話「聞く・答える・問い返す」)の満足度60%以上	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	○毎月2冊以上の読書の実行70%以上	◎宿題の充実—課された宿題の提出90%以上	14回	18回	180.0%	A	計画以上のペースで進捗している。	○今年度の全国学力調査・基礎基本定着状況調査結果は全国平均比-0.1ポイントであった。同調査は来年度から基幹制から3割抽出制に移行するが、三原市は引き続き全校を対象に調査を実施すること明らかにしている。今後とも比較が可能である。三原市教育委員会主催の標準学力調査は、各学年各教科をトータルして、全国平均を2.5ポイント上回っている。広島県教育委員会主催の基礎基本の定着状況調査は県平均比-2.4ポイントであった。これらの難関調査において、全国平均や県平均を超えるようにする。そのための改善策として、授業改善や学力向上のためのドリルタイム「探究」の時間の設定、宿題の充実を努める。	○	○	○	○目標値を数値化するのには危険であるが、わかりやすいものになっている。	
			○授業満足度70%以上	◎全国学力調査・基礎基本定着状況調査・標準学力調査結果の全国平均(県平均)比各5ポイントアップ	○補充的・発展的な学習の満足度60%以上	○特別支援学級と普通学級の交流の満足度70%以上	◎各教科等での「言語技術」の活用による相互作用(対話「聞く・答える・問い返す」)の満足度60%以上	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	○毎月2冊以上の読書の実行70%以上	◎宿題の充実—課された宿題の提出90%以上	67.0%	69.5%	99.3%	B	授業の工夫・改善が求められている。	○	○	○	○できるだけ外部の人たちに見ていただくのがよい。			
			◎全国学力調査・基礎基本定着状況調査・標準学力調査結果の全国平均(県平均)比各5ポイントアップ	○補充的・発展的な学習の満足度60%以上	○特別支援学級と普通学級の交流の満足度70%以上	◎各教科等での「言語技術」の活用による相互作用(対話「聞く・答える・問い返す」)の満足度60%以上	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	○毎月2冊以上の読書の実行70%以上	◎宿題の充実—課された宿題の提出90%以上	-0.13	-0.13	-2.0%	D	数学と英語に課題がある。	○	○	○	○	○経年変化を見ていくとよい。			
			○補充的・発展的な学習の満足度60%以上	○特別支援学級と普通学級の交流の満足度70%以上	◎各教科等での「言語技術」の活用による相互作用(対話「聞く・答える・問い返す」)の満足度60%以上	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	○毎月2冊以上の読書の実行70%以上	◎宿題の充実—課された宿題の提出90%以上	64.0%	66.0%	73.3%	C	習熟度別指導の効果が上がっていない。	○	○	○	○	○	○	○	○	
			○特別支援学級と普通学級の交流の満足度70%以上	◎各教科等での「言語技術」の活用による相互作用(対話「聞く・答える・問い返す」)の満足度60%以上	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	○毎月2冊以上の読書の実行70%以上	◎宿題の充実—課された宿題の提出90%以上	64.0%	66.0%	73.3%	C	音楽・美術・保健体育の交流のみに止まっている。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
徳育	<p>(豊かな心) ◎道徳性・感性・社会性・コミュニケーション能力・人間関係力の育成 ◎教育相談の充実 ◎道徳教育の充実 ・体験の言語化 ・体験の経験化 ◎生徒指導の充実 ◎キャリア教育の推進 ◎表現教育の充実</p>	<p>◎個と集団への積極的な生徒指導の推進 ◎生活三訓(挨拶・時間厳守・整理整頓)の徹底 ◎総合単元的な道徳学習の充実 礼儀・感謝・思いやり 心・友情・人格の尊重 広い心・生命の尊重 ・郷土愛・伝統文化の継承—規範意識の育成 ◎表現力(音声言語表現・文字言語表現・身体言語表現)の育成 ◎相互作用の充実—「学び」の共同体</p>	◎「先生は生徒の話をよく聞いてくれる」の評価70%以上	◎「先生は生徒に熱心に指導してくれる」の評価70%以上	◎「二中は生活三訓を徹底している」の評価70%以上	◎道徳の授業の満足度70%以上	○道徳性発達検査(年間2回)の100%実施	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	◎体験を「道徳」に生かすことへの満足度60%以上	◎道徳の授業での役割演技等の表現活動の満足度70%以上	◎道徳の授業での道徳的葛藤に係る相互作用の満足度70%以上	45.0%	53.5%	76.4%	C	積極的な生徒指導や教育相談的な生徒指導が求められる。	○叱ったり罰を与えたりするだけでなく、問題行動を未然に防止することを大切にすることからも、心に響く積極的な生徒指導を推進していく。具体的には、道徳を要とし、教科や総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連を図る「総合単元的な道徳学習」をいっそう中身の濃いものとしていく。その手段として、言葉の力(言語活動の充実)や体験の力(ミュージカル、全校合唱、職場体験学習、道徳実現学習)によって、道徳教育の充実、相互作用(対話)の成立、キャリア教育の充実、学びの共同体づくり、活用能力(思考力・判断力・表現力)の充実を図る。	○	○	○	○目標値を数値化するのには危険であるが、わかりやすいものになっている。	
			◎「先生は生徒に熱心に指導してくれる」の評価70%以上	◎「二中は生活三訓を徹底している」の評価70%以上	◎道徳の授業の満足度70%以上	○道徳性発達検査(年間2回)の100%実施	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	◎体験を「道徳」に生かすことへの満足度60%以上	◎道徳の授業での役割演技等の表現活動の満足度70%以上	◎道徳の授業での道徳的葛藤に係る相互作用の満足度70%以上	72.0%	70.5%	100.7%	A	心に響く指導が求められている。	○	○	○	○	○		
			◎「二中は生活三訓を徹底している」の評価70%以上	◎道徳の授業の満足度70%以上	○道徳性発達検査(年間2回)の100%実施	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	◎体験を「道徳」に生かすことへの満足度60%以上	◎道徳の授業での役割演技等の表現活動の満足度70%以上	◎道徳の授業での道徳的葛藤に係る相互作用の満足度70%以上	76.0%	78.0%	111.4%	A	生活三訓については日常的な指導になっているが、十分とは言えない。	○	○	○	○	○	○	○	○
			◎道徳の授業の満足度70%以上	○道徳性発達検査(年間2回)の100%実施	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	◎体験を「道徳」に生かすことへの満足度60%以上	◎道徳の授業での役割演技等の表現活動の満足度70%以上	◎道徳の授業での道徳的葛藤に係る相互作用の満足度70%以上	66.0%	69.0%	98.6%	B	心に響く道徳授業が求められている。	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			○道徳性発達検査(年間2回)の100%実施	○「道徳」を要としたと各教科、総合的な学習の時間、特別活動との有機的な関連の満足度60%以上	◎体験を「道徳」に生かすことへの満足度60%以上	◎道徳の授業での役割演技等の表現活動の満足度70%以上	◎道徳の授業での道徳的葛藤に係る相互作用の満足度70%以上	66.0%	69.0%	98.6%	B	道徳性発達検査の実施は予定を変更することにした。フェアスマインドが絶版のため。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
体育	<p>(たくましい体力と健康) ◎意欲・気力・体力の鍛錬 ◎耐性の育成</p>	<p>◎部活動の充実—一切磋琢磨 ◎食教育の推進 ・朝食を大切にす啓発</p>	◎部活動への積極的参加の評価(満足度)80%以上	◎部活動を通して得た意欲・気力・体力・耐性の評価70%以上	○「毎日朝ごはんを食べる」の評価90%以上	○新体力テスト結果の前年度比各2ポイントアップ	◎部活動への積極的参加の評価(満足度)80%以上	◎部活動を通して得た意欲・気力・体力・耐性の評価70%以上	○「毎日朝ごはんを食べる」の評価90%以上	○新体力テスト結果の前年度比各2ポイントアップ	69.0%	76.0%	95.0%	B	生徒の部活動参加への意欲は旺盛であるが、教師のかかわりが希薄になっている。	○食教育を推進することによって、体力と学力の向上に結び付けていく。部活動の充実にも力をいれていく。	○	○	○	○多忙な教職員に部活動の指導もつかりたいというは大変であるが、頑張ってもらいたい。		
			◎部活動を通して得た意欲・気力・体力・耐性の評価70%以上	○「毎日朝ごはんを食べる」の評価90%以上	○新体力テスト結果の前年度比各2ポイントアップ	69.0%	76.0%	95.0%	B	生徒の部活動参加への意欲は旺盛であるが、教師のかかわりが希薄になっている。	○食教育を推進することによって、体力と学力の向上に結び付けていく。部活動の充実にも力をいれていく。	○	○	○	○	○	○	○	○			
			○「毎日朝ごはんを食べる」の評価90%以上	○新体力テスト結果の前年度比各2ポイントアップ	69.0%	76.0%	95.0%	B	生徒の部活動参加への意欲は旺盛であるが、教師のかかわりが希薄になっている。	○食教育を推進することによって、体力と学力の向上に結び付けていく。部活動の充実にも力をいれていく。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			○新体力テスト結果の前年度比各2ポイントアップ	69.0%	76.0%	95.0%	B	生徒の部活動参加への意欲は旺盛であるが、教師のかかわりが希薄になっている。	○食教育を推進することによって、体力と学力の向上に結び付けていく。部活動の充実にも力をいれていく。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
情報発信	<p>(地域に信頼される学校づくり)—広報活動の充実 ◎家庭・地域との連携 ◎学校からの積極的な発信 ◎説明責任の貫徹</p>	<p>◎小中高大連携の推進 ◎授業公開(年間3回) ◎研究公開—地域公開11/5 ◎地域人材の活用 ◎学校関係者評価の充実 ◎学校だより及びホームページの充実</p>	◎小中高大との授業等交流(年間5回)の100%実施	○授業公開(年間3回以上)及び研究公開(年間1回)の100%実施	◎各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、選択での地域人材の活用前年度比10%以上の増	◎学校関係者評価委員会(年間2回)の100%実施	◎学校だよりの発行回数15以上、ホームページの更新回数30以上	◎小中高大との授業等交流(年間5回)の100%実施	○授業公開(年間3回以上)及び研究公開(年間1回)の100%実施	◎各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、選択での地域人材の活用前年度比10%以上の増	◎学校関係者評価委員会(年間2回)の100%実施	◎学校だよりの発行回数15以上、ホームページの更新回数30以上	5回	6回	120.0%	A	研究授業や生徒指導に係る小・中連携、キャリア教育に係る中高連携を積極的に進めている。	○今後もいっそう小中高連携(学力向上、生徒指導)、中高連携(キャリア教育)、中大連携(健康教育—身の衛生、教育実習)を推進していく。	○	○	○	○ミュージカルに期待している。
			○授業公開(年間3回以上)及び研究公開(年間1回)の100%実施	◎各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、選択での地域人材の活用前年度比10%以上の増	◎学校関係者評価委員会(年間2回)の100%実施	◎学校だよりの発行回数15以上、ホームページの更新回数30以上	5回	6回	120.0%	A	研究授業や生徒指導に係る小・中連携、キャリア教育に係る中高連携を積極的に進めている。	○今後もいっそう小中高連携(学力向上、生徒指導)、中高連携(キャリア教育)、中大連携(健康教育—身の衛生、教育実習)を推進していく。	○	○	○	○	○	○	○	○		
			◎各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、選択での地域人材の活用前年度比10%以上の増	◎学校関係者評価委員会(年間2回)の100%実施	◎学校だよりの発行回数15以上、ホームページの更新回数30以上	5回	6回	120.0%	A	研究授業や生徒指導に係る小・中連携、キャリア教育に係る中高連携を積極的に進めている。	○今後もいっそう小中高連携(学力向上、生徒指導)、中高連携(キャリア教育)、中大連携(健康教育—身の衛生、教育実習)を推進していく。	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
			◎学校関係者評価委員会(年間2回)の100%実施	◎学校だよりの発行回数15以上、ホームページの更新回数30以上	5回	6回	120.0%	A	研究授業や生徒指導に係る小・中連携、キャリア教育に係る中高連携を積極的に進めている。	○今後もいっそう小中高連携(学力向上、生徒指導)、中高連携(キャリア教育)、中大連携(健康教育—身の衛生、教育実習)を推進していく。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

本年度の重点目標については◎印で示す。

【:自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【:学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: 分からない。